

## 研究会の視点

- 単元構想に関連して
  - ・子どもは学習材に対して思い・願いをもち主体的に関わっていたか。
  - ・単元の目的がはっきりしていたか、  
または、今後子どもと整理していくための芽が見られたか。
- 授業づくり(本時の学びどころ)に関連して
  - ・学びどころで目指す子どもの姿(本時目標のどこか)が明確になっていたか。  
また、子どもの現在の思いや状況に合ったものであったか。
  - ・「本時のしかけ」は機能していたか。また、子どもの現在の思いや状況に合ったものであったか。(子どもができることを、教師がしていないか、  
または、子どもがやらなくてもいいことをやらせていないか)

### 1年1組(堀級) 「おはなを そだてて れべるあっぷ!」

#### 【担任の意図】

学校探検や登下校の途中で見つけた花の種などから、これから育てるのにぴったりの植物を育てて、花を咲かせようという意欲をもった。水やりや肥料、日当たりのよいところに置くなど世話をしてきたことと、植物の生長を結びつけいきたい。

#### 【授業の様子】

子どもたちは、熱心に観察し、植物の様子をよく見ていた。その中で、水やりをしすぎてしおれている子どもに、「水やりのしすぎは良くないよ。」などアドバイスをし合う姿も見られた。まだ花が咲いてない子どもは、自分たちが世話をしたから大きくなったという気持ちに至らなかった。



### 4年1組(堀内級) 「戸部小ファームで 41ジャム」

#### 【担任の意図】

T先生からいただいたジャムを食べ、手作りジャムの良さについて知り、自分たちも作ってみたいという思いをもっていた子どもたち。実際に作ることで今後の自分たちのジャム作りで大切にしたいことを具体的に表現できるようにしたい。

#### 【授業の様子】

「T先生のジャムと比べて…」という言葉が多く聞かれ、自分たちの中で基準を設けて比較して食べることができたのではないかと考える。子どもの話合いの中でどう教師が入っていくかでもっと今後の活動への見通しがもてたのではないかと思うので、今後の課題として取り組みたい。



### 6年2組(花村級) 「6-2たいよう 防災隊」

#### 【担任の意図】

市民防災センターに行き、災害体験をすることで、自分たちがまちに伝えたい内容を探ってきた。まちが求める防災にしていくなためにも、一度立ち止まり、専門家やまちの意見を聞くことが大切だということに気付かせるようにする。

#### 【授業の様子】

子どもたちの発言を板書に可視化できるように担任が整理をしていったが、子どもがより思考する場面を授業に設定していく必要があった。子どもがより主体的に授業を進めていくためにも、もっと子どもに任せた授業づくりをしていくことが大切だと感じた。



## 講師の先生から

<渋谷先生>

○気付き…対象に対する一人一人の認識→一人一人の活動によって生まれる

知的と情意 お花とお話した気付きも立派な気付き

今日の子どもたちは、例えることが秀でていた。「ドレミファソラシドみたい」→問い返してみたい。順番を言っていたのか、五線譜にのった音符みたいだと思ったのか。気付きを自覚化させることが、教師の重要な役割。

- 育てているものに対して、手紙を書いて、気付きを自覚化
- テレビのように絵と文で

→子どもたちが選択して表現する、多様性をたえられるような工夫を。

○自分がやりたいと思っていたことはどこに入るのだろうか、という内省を途中で挟む→だれに、何を、にしていく。

○位置づけられたものが、再構成されることで、豊かな学びが実現される可能性がある。

<倉澤先生>

○一人一人が、植物と心を通わせている・情意を働かせているということが共通している。

→そこから客観的な気付きへの芽がどの程度出ていたか。

○授業のスタイルの中で、授業の初めに、みんながそれぞれに見る前に、しかけ

「ねえねえ、…くんが、困っているんだって。みんな聞いてくれる？」

それぞれの視点を持ちながら、共通の視点をもって話すことで、次への発展の芽が出てくる。